

外来語「リスク」とその類義語の意味比較 —既存の類義語を持つ外来語の存在理由—

宮田公治, 田中牧郎 (国立国語研究所)

1. はじめに

外来語は、新しい物や概念の導入に伴って使われ始めることが多いが、中には類義の漢語・和語がすでに存在するにもかかわらず多用されるものもある。そうした「既存の類義語を持つ外来語」は、ただ新奇さを求めて使われているだけなら、既存の類義語にさほど問題なく「言い換え」ができるはずである。しかし、外来語と既存語との間に一定の棲み分けが確立している、単純な置換を拒む場合もある。本研究は、この種の外来語の存在理由を考察する足がかりとして、外来語と既存の類義語の意味の比較を行う。

今回は、「リスク」とその類義語と考えられる「危険」「危険性」を比較する。この語を分析対象として選んだのは、使用頻度が高く、使用範囲も広い、日本語話者にとっての意味・用法に関する一定の共通理解が確立している（すなわち、意味分析に耐えうる）と考えられるためである。ただし、内省だけでは微妙な違いまで十分に記述することは困難なので、分析にあたっては、大量かつ一定の規範性・均質性が期待できるコーパスとして、新聞（朝日新聞・毎日新聞・読売新聞の2003・2004年の朝夕刊）を利用する。

2. 共起する用言類の比較

2.1 用言類の出現数

上記の新聞記事データから全文検索システム『ひまわり』を用いて「リスク」「危険」「危険性」の用例を採集し、助詞「が」「を」「に」「は」「も」を介して後接する用言類の数を計測した（便宜上、名詞+助詞に用言類が直接結びついている例のみ数えた）。「は」「も」の例は、相当する格助詞の例に組み入れて数えた。「名詞+がをにはも」の総数は、以下の通りである。

- ・リスク 4671
- ・危険 8091
- ・危険性 5313

「リスク」と共起した用言類の数を「危険」「危険性」と比較し、次のA～Eの5類に分けた（「リスク」と「危険」を比較した場合）。

- ・A: 「危険」とのみ共起
- ・B: 「危険」と共起する例が多い
(1000例あたりの用例数が「リスク」の3倍以上)
- ・C: AB・DE以外
- ・D: 「リスク」と共起する例が多い
(1000例あたりの用例数が「リスク」の3倍以上)

・E: 「リスク」とのみ共起

なお、少なくとも一方の名詞と共起した例が5以上出現した用言類のみを分析対象とする（どちらも4例以下のものは除外した）。

2.2 用言類の意味分類

採集された用言類を、意味カテゴリと構文から以下のように分類する。

(1) 人²が被る影響

・〈人〉に 【〇〇】がを 〈用言類〉

[1]アテネ五輪期間中に米国人に【危険】が及んだ場合

[2]クローン人間づくりは母体や子供に多大な【危険】をもたらす

・〈人〉がを 【〇〇】に 〈用言類〉

[3]確かに、記者も、いずれの【危険】に随ってもおかしくな
かった

[4]従業員をより高い【リスク】にさらす

(2) 認識・伝達

・〈人〉が 【〇〇】がをに 〈用言類〉

[5]当時はHCV感染の【危険性】がわからず

[6]政府は派遣による利益と【リスク】を検討したうえで

[7]暗に薬物汚染の【危険性】を指摘した

(3) 行動

・〈人〉が 【〇〇】がをに 〈用言類〉

[8]資金の出し手は、【リスク】を取る見返りに高い収益を期待
する

[9]きちんと【危険】に対処できる装備を持った自衛隊員を派
遣し

(4) 程度の変化

・【〇〇】が 〈用言類〉

[10]一緒に動けば、攻撃される【リスク】が高まるのでは

[11]感染の【危険性】が下がり、相談件数も今後減る

(5) その他 (存在・発生・消失・関係など)

・【〇〇】がをに 〈用言類〉

[12]要介護状態になる【リスク】があるといっても

[13]それでも感染の【リスク】が消えたわけではなかった

[14]報道が記者自身や部隊の【危険】につながる場合もあり
得るので

[15]テロを誘発する【危険性】も含め、あらゆる側面から妥当
性を検討し

なお、「(2)認識・伝達」は、便宜的な分類ではあるが、さらに

1 日外アソシエーツ「CD—朝日新聞・毎日新聞・読売新聞」各2003・2004年版

2 組織・集団や、人体・財産なども含める。

以下の下位カテゴリに分ける。

- ・知覚…「察知する」「気づく」「知る」「分かる」など
- ・思考…「考える」「予想する」「意識する」など
- ・評価…「否定する」「懸念する」「注意する」「嫌う」など
- ・伝達…「警告する」「言及する」「説明する」など

また、「(4)程度の変化」に属する用言類は「減る」などの自動詞に限っており、「減らす」などこれに対応する他動詞は、「(3)行動」に含まれる(【17】のような非意志的な例も特に区別しない)。

【16】松下電器は、松下リースの売却で金融面の【リスク】を減らし

【17】活発な運動はアルツハイマー病発症の【危険性】を減らす

ただし、後で述べるように「程度の変化」に関わる自他動詞に共通する用法の偏りが見られるので、表では(3)のうち「程度の変化」に関わる他動詞は区別して掲げている。

2.3 考察

出現数(A~E)と意味カテゴリ(1)~(5)の対応関係を【表1】【表2】に示す。A・BまたはD・Eと隣接して該当語がない(または、ほとんどない)部分には網掛けを施してある。各表に見られる主な偏りは、以下の通りである。

◇「危険」と「リスク」(表1)

- ア。「(1)人が被る影響」はA・Bのみ。
 - イ。「(2)認識・伝達」の「知覚」の用言類はA・B・Cのみ。
 - ウ。「(2)認識・伝達」の「評価」の用言類はC・D・Eのみ。
 - エ。「(4)程度の変化」はBに「増す」1語があるのみで、後はC・D・Eに偏っている。(3)のうち「程度・量」に関わる用言類もC・D・Eのみ。
- ◇「危険性」と「リスク」(表2)
- オ。「(1)人が被る影響」はEに「(リスクに) さらす」1語があるのみ。
 - カ。「(2)認識・伝達」のうち「知覚」の用言類はA・Bのみ。
 - キ。「(2)認識・伝達」のうち「伝達」の用言類はA・Bのみ。
 - ク。「(3)行動」の用言類はBは「減じる」1語があるのみで、後はC・D・Eに偏っている。

以上から、次のような見通しが得られる。

- ・「(1)人が被る影響」に関する用言類の多くが「危険」と共起するのは、「危険」はすでに発生している状態を表す、つまり〈状態性〉を有することを示唆していると考えられる。このことは、「危険」が形容動詞(～な、～だ)であることとも関わりがある。さらに、「(2)認識・伝達」の知覚(「察知する」「見逃す」)、思考(「予想する」「予知する」)、「(3)行動」の「除去する」「放置する」など、もっぱら「危険」と共起する動詞には、「危険な状態の発生」を前提とする行為が多いことから支持されるだろう。
- ・「(4)程度の変化」に関する用言類の多くが「リスク」と共起するのは、「リスク」は他の2語に比べて〈程度性〉という

性質を強く持つためであると考えられる。このことは、「(2)認識・伝達」の「思考」(「計算」「検討」など)、伝達(「説明する」など)、「どれくらい～か」を問題にする動詞と結びつくことが多いことから伺える。

- ・「(3)行動」に関する用言類(「取る」「負う」「分担する」「管理する」など)は、「リスク」と結びつきやすい。このことは、「リスク」は行為主体の意図と責任のもとに選択されるという〈意図性〉を有していることを示すと考えられる。「(2)認識・伝達」の「評価」(「嫌う」「恐れる」など)も、発生した状態に対するものではなく、行動選択に際しての態度であろう。なお、この〈意図性〉は、上の〈程度性〉とも密接な関わりがある。行動を選択するに当たって、利害のバランスを勘案するという場面で用いられやすいからである。
- ・「危険性」は(一状態性)がない点で「リスク」と似ているが、〈意図性〉はない。ただ、「増す」「高まる」など、「(4)程度の変化」の用言類との共起は、「危険」よりは多い。ただし、「(2)認識・伝達」の「判定する」「否定する」「訴える」のように、「どれくらい危険か」というよりも、単なる有無を問題にした「危険であること」の意で使われる動詞と結びつくことが多いようである。

【表3】共起する用言類の比較

意味カテゴリ	危険	危険性	リスク	
(1)人が被る影響	○	×	×	
(2)認識・伝達	知覚	○	×	
	思考	「予想」「予知」 など	「判定」「立証」 など	「計算」「検討」 など
	評価	△「否定」など	△「否定」など	「嫌う」「恐れる」 など
	伝達	△「訴える」 「警告する」 など	○	△「説明」「指摘」 など
(3)行動	「除去」「放置」 など	×	「分担」「冒す」 など	
(4)程度の変化	△「増す」「高まる」 など	△「増す」「高まる」 など	○	

○:共起する

×:ほとんど共起しない

△:一部の語のみ

【表4】意味特徴の比較

	危険	危険性	リスク
〈状態性〉	○	×	×
〈程度性〉	△	△	○
〈意図性〉	×	×	○

【表1】「危険」[リスク]と共起した用言類

		※数値は「危険」と共起した用例数/「リスク」と共起した用例数				
意味カテゴリ	構文	A「危険」のみ	B「危険」多	C両方	D「リスク」多	E「リスク」のみ
(1)人が被る影響	〇〇が<人>に	及ぶ(155/0),迫る(111/0),切迫(46/0),差し迫る(14/0)				
	〇〇を<人>に	及ぼす(76/0)	もたらす(14/2)			
	<人>が〇〇に	遭遇(23/0),陥る(17/0),遭う(12/0)	直面(33/3)			
	<人>を〇〇に	陥れる(8/0)	さらす(553/22),巻き込む			
(2)認識・伝達	知覚	<人>が〇〇に	気づく(12/1)			
		<人>が〇〇を	察知(67/0),見逃す(5/0),覚える(5/0)	を感じる(485/8),知る(143/9)		
	思考	〇〇が			分かる(11/3)	
		<人>が〇〇に	思う(5/0)			
評価	<人>が〇〇を	顧みる(125/0),予想(31/0),予知(6/0)	予測(36/4),予見(17/2)	認める(10/3),認識(10/3),承知(96/42),判断(5/6),学ぶ(5/4),考慮(12/17),考える(28/47)	理解(4/9),意識(1/7)	勘案(0/5),計算(0/6),検討(0/7),分析(0/10),織り込む(0/11)
	<人>が〇〇に			に注意(9/9)		
伝達	<人>が〇〇を	訴える(24/0),警告(12/0)		心配(7/6),覚悟(42/40),否定(5/6)	恐れる(5/31),懸念(1/13)	嫌う(0/10),評価(0/15)
	<人>が〇〇を			伝える(9/2),教える(8/2),強調(6/3),指摘(38/20)	説明(1/13)	
(3)行動	<人>が〇〇に	近づく(5/0)	対処(19/3)	立ち向かう(6/2)	備える(14/28),耐える(2/5),対応(5/21)	
	<人>が〇〇を	防止(24/0),除去(13/0),賭す(5/0)	放置(10/1),取り除く(22/3)	示す(7/2),防ぐ(28/9),排除(12/4),乗り越える(9/3),冒す(192/108),避ける(120/81),なくす(7/5),回避(98/102)	かかる(3/7),無視(3/11),引き受ける(3/20),受容(1/8),背負う(11/99),分散(4/54),負う(5/186)	分担(0/6),限定(0/6),管理(0/7),負担(0/10),遮断(0/13),取る(0/175)
(4)程度の変化	〇〇が		増す(104/15)	増大する(58/23),増幅する(5/2),高まる(137/97),減る(18/21)	増える(13/27),減少(2/8),膨らむ(1/5),低下(1/5),下がる(1/8)	後退(0/5),増加(0/5),上がる(0/5)
	<人>が〇〇を			減らす(34/58),高める(22/38)	軽減(13/83),抑える(1/19),下げる(1/20)	上げる(0/5),最小に(0/6),低減(0/9),最小限に(0/18)
(5)その他(存在・発生・消失・関係など)	〇〇に	する(10/0)	つながる(19/3)	なる(88/33),対する(32/28)	加える(2/6),関する(4/15),見合う(7/38)	基づく(0/5),応じる(0/32)
	〇〇を		与える(19/1),招く(32/2),はらむ(121/12)	秘める(5/1)	持つ(3/11),抱える(8/83),含める(2/7)	反映(0/7)
	〇〇が	出る(30/0),明らかだ(11/0),必要だ(6/0),去る(14/0),続く(5/0)	いっばいだ(40/2),生じる(169/12),現実化(13/1)が潜む(54/5),満ちる(11/1),ない(367/58),多い(38/7)	ある(1677/406),伴う(411/146),付きまとう(43/16),発生(7/4),付き物だ(26/16),少ない(70/54),解消(3/3),存在(8/9),変わる(5/6),残る	ゼロだ(8/17),低い(15/38),消える(2/6),共有(3/9),大きい(81/266),小さい(8/34),顕在化(1/6)	

【表2】「危険性」[リスク]と共起した用言類

		※数値は「危険性」と共起した用例数/「リスク」と共起した用例数					
意味カテゴリ	構文	A「危険性」のみ	B「危険性」多	C両方	D「リスク」多	E「リスク」のみ	
(1)人が被る影響	<人>を〇〇に					にさらす(0/22)	
(2)認識・伝達	知覚	<人>が〇〇に	気づく(9/1)				
		<人>が〇〇を	忘れる(10/0),実感(10/0),	知る(79/9),感じる(35/8),自覚(5/2)			
	思考	〇〇が		が分かる(19/3),判明(6/1),認識(145/7),予見(33/2),認める(29/3),予測(28/4),調べる(7/2),判断(15/6),把握(8/3),学ぶ(8/4)を再認識(6/1)	理解(11/9),考慮(11/17),考える(33/47),	承知(5/42)	勘案(0/5),計算(0/6),意識(0/7),検討(0/7),分析(0/10),織り込む(0/11)
		<人>が〇〇を	判定(14/0),確認(13/0),顧みる(6/0)を立証(5/0),裏付ける(5/0)				
評価	<人>が〇〇を		否定(44/6)	懸念(13/13),心配(5/6),評価(5/15)		嫌う(0/10),恐れる(0/31)	
	<人>が〇〇に	警鐘を鳴らす(27/0),触れる(7/0)	言及(9/1)				
伝達	<人>が〇〇を	訴える(94/0),警告(21/0),呼びかける(7/0),叫ぶ(7/0),示唆す(5/0)	指摘(377/20),説く(9/1),教える(16/2),伝える(15/2),強調(18/3),話し合う(6/1),明示(6/2),説明(32/13)				
	<人>が〇〇を						
(3)行動	<人>が〇〇に			配慮(5/4),注意(4/9)	備える(6/28)	耐える(0/5),対応(0/21)	
	<人>が〇〇を			排除(7/4),無視(4/11)	避ける(7/81),回避(9/102)	なくす(0/5),限定(0/6),分担(0/6),かかる(0/7),管理(0/7),受容(0/8),防ぐ(0/9),負担(0/10),遮断(0/13),引き受ける(0/20),覚悟(0/40),分散(0/54),背負う(0/99),冒す(0/108),取る(0/175),負う(0/186)	
(4)程度の変化	〇〇が		減じる(20/1)	減らす(24/58),下げる(5/20)	軽減(5/83)	上げる(0/5),最小に(0/6),低減(0/9),最小限に(0/18),抑える(0/19),高める(0/38)	
	<人>が〇〇を		増す(48/15),高まる(222/97),低下(10/5)	増大(12/23)	増える(5/27)	後退(0/5),上がる(0/5),増加(0/5),膨らむ(0/5),下がる(0/8),減少(0/8),減る(0/21)	
(5)その他(存在・発生・消失・関係など)	〇〇に			対する(26/28),関する(12/15)		基づく(0/5),応じる(0/32),なる(0/33),見合う(0/38)	
	〇〇を	抱いて(13/0),有する(8/0),体験す(5/0)	秘めて(16/1),示し、(20/2),はらむ(93/12)	含めた(10/7),持つ(11/11)	共有(0/9),抱える(0/83)		
	〇〇が	出る(23/0),明らか(13/0),浮き彫り(13/0)	強い(8/1),現実化(6/1),浮かぶ(5/1),ない(185/58),ある(1177/406),低い(95/38),高い(487/214)	潜む(9/5),残る(37/33),生じる(13/12),少ない(52/54),消える(4/6),付きまとう(6/16),小さい(11/34)	伴う(19/146),大きい(22/266)	顕在化(0/6),変わら(0/6),加え、(0/6),多い(0/7),反映(0/7),存在(0/9),付き物だ(0/16),ゼロ(0/17)	

3. 連体修飾句との共起関係

前節の分析の妥当性を別の観点から検討すべく、連体修飾句との共起関係を比較する。[16]のように格関係に還元可能な連体修飾句（いわゆる「内の関係」）との共起関係は、前節で行った分析と同様であるので、ここでは[17]のような内容補充の連体修飾（外の関係）に限って比較を行う。

[16]派遣延長で高まる【リスク】(⇒リスクが高まる)

[17]テロリストに攻撃される【リスク】が最も高い

用例採集の際には、便宜上、各名詞の前に「る」「た」「だ」が前接した例のみ採集した（つまり、五段活用動詞・形容詞の非過去形の例は採集していない）。

連体修飾句が表す事態は、次の2つのタイプが存在する。

- ・①(利害の受け手にとって) 意図的制御が不可能な事態
 - [18]少しの雨でも水量が大幅に増える【危険性】があった
 - [19]肉骨粉や牛が英国から入った【リスク】は日本より高い
 - [20]北朝鮮が核兵器を持ったり使用したりする【危険】が生じれば
- ・②意図的制御が可能な事態
 - [21]小泉首相が自ら訪朝する【リスク】を取る姿勢を示した
 - [22]国の環境基準に達していない島に帰島する【リスク】について、自分で判断し
 - [23]狭い交換所に一人で勤務する【危険性】は、これまでも指摘されてきた

【表5】「外の関係」の連体修飾句の割合

	危険	危険性	リスク
①制御不可能	1325(99.5%)	1665(98.8%)	440(89.8%)
②制御可能	7(0.5%)	20(1.2%)	50(10.2%)

どれも①の例が多数を占めているが、そのうち「リスク」は②の割合が高い点で際立っている。①は明らかに望ましくない事態であるが、②は必ずしも悪いこととは限らない。利益が得られることを期待しつつ、不利益を被る可能性があることも承知して行動選択をする、という状況である。②の例は、被修飾名詞の後に「(2)伝達・認識」「(3)行動」に属する「判断する」「取る」「冒す」のような、利害の受け手自身の意図にもとづく行為を表す動詞と共起する例が多い。②のような表現は、やはり「リスク」の〈意図性〉に支えられてこそ作られやすいのだろう。

4. おわりに

「リスク」は、〈程度性〉〈意図性〉という意味特徴を顕著に有しているために、「危険」「危険性」が十分に担っていない意味を表せることを見た（【表4】）。他の類義語（「危機」「脅威」「不安」「恐れ」「ハザード」など）との比較、通時的観察など、さらに検討すべき問題は多いが、外来語と既存語が、単に文体

や響きの新しさといった違いだけでなく、一部では重なり合いながらもそれぞれ独自の意味領域を持って棲み分けている実態を示すことができたのではないかと考える。

また、本稿では取り上げられなかったが、「リスク」は「Nの」の被修飾名詞や複合名詞の後部要素として、「危険」「危険性」「危機」などよりも多様なパターンで造語が見られるようである。

- ・「感染リスク」「死亡リスク」「風評リスク」
- ・「長生きリスク」「回収リスク」「在庫リスク」
- ・「中国リスク」「イラクリスク」(cf. 「湾岸危機」)
- ・「政治リスク」「信用リスク」「為替リスク」

[25]《注・アクセルを》踏めば完走の【リスク】が高まり、緩めればその分、優勝は遠のく

このような結びつきの自由さも、「リスク」が多用される一因であると思われる。引き続き調査したい。